

社会に関心をもち、自分事としてとらえ、考えを表現する生徒の育成 ～地域学習・生き方学習における新聞活用～

出雲崎町立出雲崎中学校

1 NIE 実践のねらい

(1) 生徒の実態から

何事にも前向きな生徒が多く、日々の授業では熱心に課題を追究している。一方で、社会的事象に興味・関心をもち、諸事象を自分事として捉え思考したり、自分の考えを表現したりする意欲が十分とはいえない。

また、NRT や「にいがた学びチャレンジ」等において、全国や県の結果と比較すると、語彙力の不足や「自分の考えや思いを言葉で表現すること」を苦手としている傾向がある。

そこで、社会的な事象への興味・関心を高め、表現力を育むために、総合的な学習の時間を中心に NIE 実践に取り組むことにした。新聞を活用することで、社会的な諸課題への視野を広げるとともに、語彙力や情報活用能力を高め、自分の考えを意欲的に表現する生徒の育成を図った。

(2) 研究主題との関連から

当校は、『主体的・対話的で深い学びの実現』～よりよく表現しようとする生徒の育成を通して～」を研究主題として、校内研修を進めている。「よりよく表現しようとする生徒の姿」として、次のことを目指している。

- 1 伝えたい内容を、丁寧な文字や図、明瞭な言葉で表現しようとしている。
- 2 伝えたい内容を、事実や資料、データをもとに表現しようとしている。
- 3 伝えたい内容を、他と比較・検討して表現しようとしている。
- 4 他の意見を取り入れ、伝え方や伝えたい内容を工夫して表現しようとしている。
- 5 伝える相手に合わせて、伝える内容や表現方法を工夫しようとしている。

NIE 実践にあたり、新聞には、以下のような特性があると考えた。

- ・ 現代社会で起きていることや問題に関する情報の一覧性
- ・ 信頼性の高い情報、多様な視点からのものの見方や考え方
- ・ 要点をまとめ効果的に伝える表現、語彙の豊かさ

このような特性を生かして、地域学習や生き方学習を進める総合的な学習の時間の新聞活用場面を工夫すれば、生徒は多様な社会問題に対する興味や関心が高まり、考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えを他者に分かりやすく表現できるようになると考えた。そして、自分自身の学びの深まりや表現することへの喜びを感じることができ、さらに、よりよく表現しようとする意欲も向上すると考え、本実践に取り組んだ。

2 本年度実践の概要

(1) 新聞に親しむ環境づくり

①新聞閲覧コーナーの設置

数社の新聞の閲覧場所を設置し、新聞記事に関連した書籍などを紹介した。

②教職員おすすめの記事コーナー

生徒玄関に設置した移動黒板に、新聞記事を掲示した。回答項目をいくつか提示し、マグネットで自分の考えを示すことで、全校生徒が参加しやすいように工夫した。今年度は、各学年部職員が2週間ごとに掲示を担当し、おすすめの記事を紹介することによって、職員の新聞活用への意欲向上を図った。



(2) 思いを表現し、他者と交流する活動（新聞スクラップ）

朝の15分間で、各学年のテーマ（1年：自然環境、2年：職業、3年：町づくり施策）に沿った新聞記事を選び、付箋に感想や意見を書いたものを添付して生徒玄関に掲示した。これを「総合的な学習の時間」の探究学習に活用した。特に今年度は、生徒が互いに考えを共有するとともに、多様な表現方法を学び合えるように、昼の放送で、記事の内容と感想を紹介した。

(3) 外部講師による研修や学習

①職員研修…教職員の新聞理解、新聞活用の授業構想のため

月	日	曜	研修内容	指導者		
5	17	水	新聞理解（構成、見出し）	新潟日報社読者局 参与	木村	隆 様
8	7	月	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた新聞活用	NIEアドバイザー 小千谷市立小千谷中学校長	若林	靖人 様

②NIE 出前授業…生徒が新聞の特性を理解し、活用意欲を高めるため

月	日	曜	学年	研修内容	指導者
6	15	木	1年	新聞理解（構成、見出し）	新潟日報社読者局 参与 木村 隆 様
7	4	火	3年	新聞の構成、読み解き方	
9	12	火	2年	新聞の構成、読み解き方	

(4) 総合的な学習の時間における新聞活用

当校は、「ふるさと出雲崎を愛し、未来の生き方を創造する ～地域学習と生き方学習～」というテーマで取り組んでいる。各学年の新聞活用の状況と10月30日に行った第3学年の公開授業内容を以下にあげる。

①各学年の学習内容と新聞活用状況

	学習テーマ	新聞活用の状況
1 年	「郷土のよさを再発見しよう」 ～自然とよりよい共生を目指す地域の人々に学ぶ～	・農作業や自然環境保全の取組からの学びをポスターで表現するために、年度初めに新聞の見出しなどの表現方法を学ぶ。 ・スクラップした新聞記事から、農業や環境保全に関する様々な取組への理解を深める。
2 年	「地域で働く人々の姿から学ぼう」 ～職業と社会の関わりについて学ぶ～	・職業に関する調査の段階で、「担い手不足」などの社会問題に関する記事を活用する。 ・職場体験で実際に感じたことを新聞記事の内容と比較し、様々な視点から自己の職業観を形成する。
3 年	「出雲崎のよりよい未来を考えよう」 ～持続可能な町づくりを提案する～	・持続可能な町づくり提案の根拠となる具体的な情報を新聞記事から探す。 ・提案と他市町村の取組を比較し実効性を検証する。



1 年生 NIE 出前授業



2 年生 職業について発表



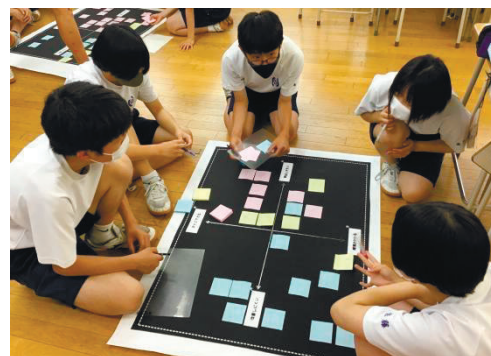
3 年生 新潟大学院生とグループワーク

②実践例 第3学年総合学習「“出雲崎町のよりよい未来”を提案する」

ア 指導のねらい

第3学年では、4月から「地域の一員として、出雲崎のよりよい未来を提案しよう」という課題で学習を進めた。自分や社会とのつながりを意識しながら、実効性のある提案ができるように、次のような指導の工夫を行った。

- 1 地域の課題や政策を学ぶために出雲崎町役場職員を中心とした地域人材の活用
- 2 社会的な課題や他市町村の取組を学び、自らの提案の根拠となる情報を得るための新聞活用
- 3 ロイロノート（シンキングツール）を活用した協働的な学習と表現活動



イ 指導計画の概要

課題設定（探究学習①）

「持続可能な町づくり」について考える。

- ・ 町役場総務課職員から、出雲崎町の現状と課題についてうかがう。
- ・ 各班のテーマ設定

- ①子育て支援，高齢者福祉 ②産業の育成，地域活性化 ③空き家対策
- ・ 人口減少への対策として、「定住人口の増加」や「関係人口（町外から関わる人）の増加」という視点をもつ。

情報の収集

自分たちの提案の裏付けとなる事実やデータ，課題の解決策を収集する。

- ・ 町の人の願いや思いを知るために，家族や町内の方へインタビューする。
- ・ 出雲崎町の施策や他市町村の施策を新聞で調べる。
- ・ インターネットで解決策について調べる。

整理・分析

様々な視点から，提案の実効性を探る。

- ・ 新潟大学院生や班員と提案内容を検討する（シンキングツールを活用した協働的な学習）。
- ・ 提案の根拠となる新聞記事を探す。紙面とデジタル版の活用。

まとめ・表現（公開授業）

課題解決の過程を他者に分かりやすく発表し，意見交流によって，自己の生き方を考える。

- ・ 持続可能な町づくりについてロイロノートを活用して発表し合い，提案に対する意見を交流する。
- ・ 地域と自己の関わり，将来の生き方について考えをまとめる。



まとめ・表現

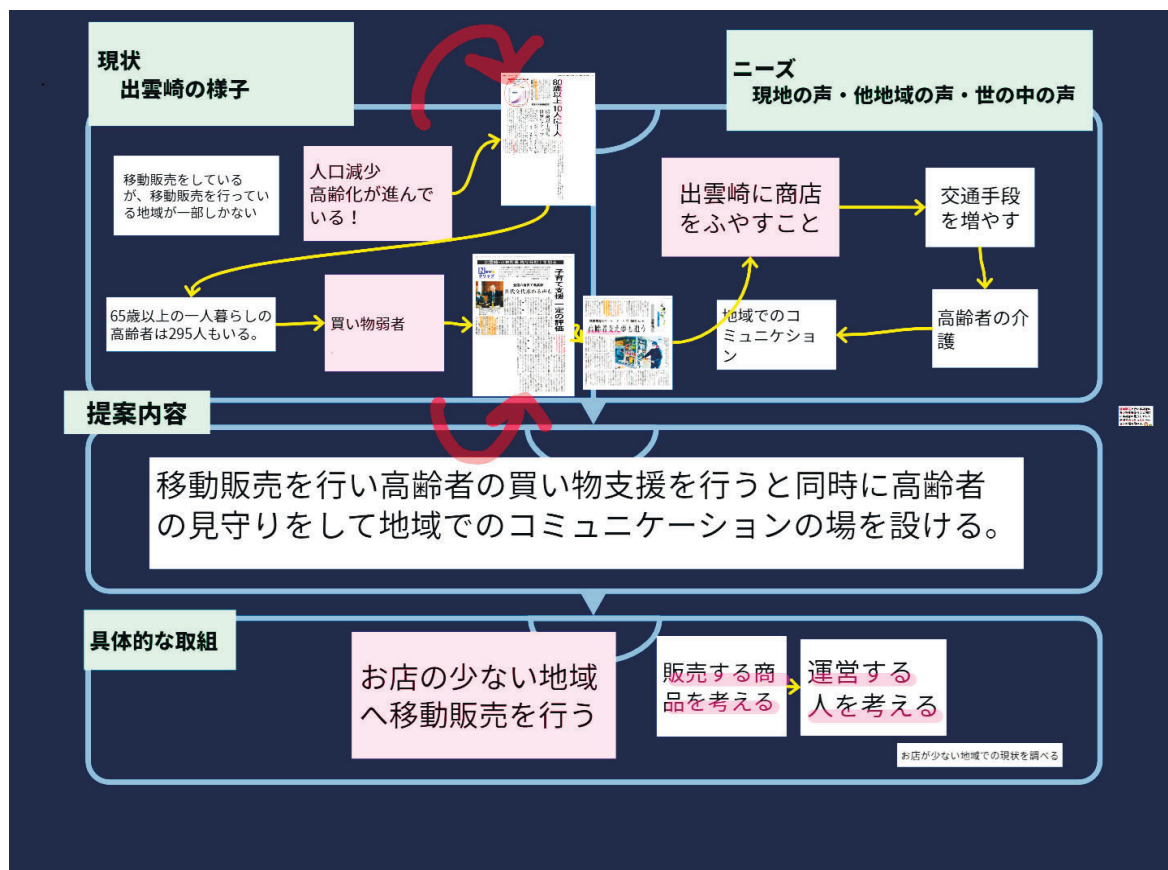
- ・ 出雲崎町議会議員に「町づくり提案」を発表する。
- ・ 提案に対する意見交換を行う。



ウ 授業者の振り返り

本実践で、生徒は、新聞記事から他地域での成果のあった取組を知ることができ、それを参考にして提案を考えることができた。授業後の振り返りには、自分たちにできることとして、「ボランティア活動に参加する」「地域の行事に参加する」など、中学生という立場で地域の力になりたいという記述が多くあった。さらには、「大人になって町を離れて生活していたとしても、出雲崎町のふるさと納税を利用する」など、自分の将来と結びつけて考えている生徒もいた。また、出雲崎町の課題を多面的に捉えることで、「少子高齢化」「地域の担い手不足」「空き家問題」などが、それぞれ関連して大きな問題になっていることに気付いたという記述もあり、出雲崎町の課題についての理解を深めた生徒が多かった。

課題としては、生徒の提案が具体的かつ多様なものになるにつれて、発表内容が増え、その提案に対する評価についても意見交流を行ったので、授業内で自己の振り返りの時間を十分に確保することができなかった。協議会で、指導者から「『どのような姿が自分事として捉えたことになるのか』授業者が目指す姿を描いておくことが大切」とご指導をいただいた。「自分ができること」について、抽象的な振り返りにとどまらないよう発問を工夫するとともに、生徒がそれぞれの提案を「自分事として捉える」ための時間を確保する必要があったと考える。



エ 参観者からのご意見

- スライドでは、実際の新聞記事を引用して、データや数字が示されていて、信頼できる発表内容だった。思考ツールをたくさん用いることで、生徒は考えを整理できていた。今回の活用法を参考にしたい。
- 時間をかけて調査、意見交流、発表準備を行っていることがよく感じられた。新聞の特性と「地域づくり」という課題は非常に相性が良いのではないかなと思う。
- △町づくりへの考えは広まったが、町に改善を期待するという部分もある気がした。「自分なら、自分たちならこうしたい」という考えが入っていても良かった。
- △発表内容の共有時に、もう少し生徒の声を聞きたかった。他の班の声も聞けると良かったと思う。

3 成果と課題

NIE 実践を振り返って、今年度 9 月末に全校生徒を対象にアンケートを実施した。いくつかの結果から成果と課題を挙げる。

(1) 成果

①「社会的諸事象に関心をもつこと」に関して

本実践によって、全校生徒が社会の幅広いカテゴリーに興味や関心を持てるようになった。NIE 実践に 2 年間取り組んだ 2・3 年生は、アンケートで「NIE の学習活動を通して関心が高まった社会のできごと」について、多くの生徒が、総合的な学習の時間に取り組んだ地域学習や生き方学習に関連したものを選択している【表 1】。

【表 1】「NIE の学習活動によって、以前より関心が高まった社会の出来事は何か」の問いについて、実践前と R 5 の比較 (%)

	地域問題	少子化	自然環境	情報社会	労働問題	政治・行政	経済	全くなし
3 年生	+ 5 0	+ 5 0	+ 1 2	+ 2 7	+ 4 5	+ 2 8	+ 2 2	- 1 2
2 年生	+ 2 4	+ 2 1	+ 4 6	+ 2 5	+ 4 2	+ 1 3	+ 1 2	- 2 9

総合的な学習の時間において、新聞を活用して探究学習を行うことによって、社会問題が一つの事象から起こっているのではなく、いくつかの事柄が関連しており、その背景には様々な側面があると学んだことが一因となっていると考える。そして、出雲崎町の自然環境保全の取組や地域の事業所での職場体験、地域で取り組む町づくりについてのインタビューなどを重ねて経験することによって、自分を取り巻く地域や社会が、自分の生活を支えていることに気づき、社会や地域に関する問題にも関心が高まったと捉える。

また、出前授業において「見出しやリード文は記事の要約で、短時間でいろいろな情報を知ることができる」ことを学び、教室や閲覧コーナーに

ある新聞などを一覧する生徒の姿が増えたことも、成果として挙げられる。別のアンケートでは、全校生徒の71%が、「社会問題を知る」ことに新聞は役立つと回答している。

1年次のNIE実践を進める中で、新聞の漢字の読みや意味の理解に困難さを感じて、読み進められない生徒がおり、そのほとんどが、「社会に起こった出来事やニュースに関心が全くない」と回答していたが、今年度から全校が使用しているタブレットに、手書きで漢字を入力すると、読みや意味が表示されるアプリを導入して、調べながら読めるよう支援した【図1】。2年次のアンケートでは、その新聞を読むことを苦手としていた生徒たちが、興味があるカテゴリーをいくつか選択するようになった。



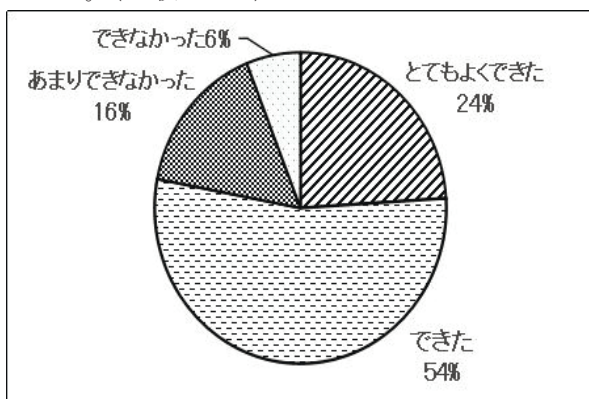
【図1】漢字読み方検索アプリの活用

②新聞を活用した表現活動に関して

ア 意見交流に対する意欲の向上

1年次は「新聞に親しむ」機会を設定し、積極的に新聞を読もうとする生徒の増加を図った。2年次は「新聞を読んで考えをもち、他者と伝えあう」場面を設定し、表現活動への意欲向上を目指した。アンケートの結果、「以前より他者の考えに触れたり、意見を交流したりすることができたか」という問いに対する肯定的評価が78%となった【表2】。

【表2】以前より他者の考えに触れたり、意見を交流したりすることができたか。(全校 R5)



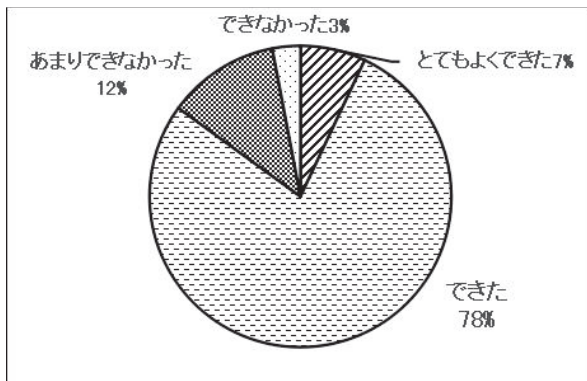
今年度は、各学年で個人が選んだ記事をスクラップして感想を書いたものや、全校生徒が意見を寄せた、職員おすすめの記事を読んだと答えた生徒が、全校の70%近くになり、閲覧コーナーの新聞よりも40%以上多かった。「クラスのみんなで、新聞記事を深掘りする活動をしてみたい」「新聞に載っている記事の中から一つ決め、それについて議論してみたい」と、今後の新聞を活用した意見交流に意欲的な振り返りもあった。

イ 新聞から学んだ表現方法を活用

【表3】のように、全校生徒の85%が、「自分の表現活動に、新聞から学んだ表現方法を生かすことができた」と肯定的であった。特に、今年度からNIEに取り組んだ1年生は、80%以上が新聞を読むことで語彙力や表現力の高まりを実感すると回答している。昨年度実施したNIEまとめの発表会の協議会で発表資料(ロイロノート)の原稿作

成時に、新聞の見出しや記事の要約、図表の効果的な活用などを生か

【表3】新聞のしくみを学んだり、記事を読んだりしたことをあなたの表現活動に生かすことができたか
(全校 R5)



した表現方法を指導することが重要であると、ご指導いただいた。そこで、今年度は、1年生のポスター制作や、2年生のロイロノートを使った発表、3年生の町づくり提案などに、「新聞から学んだ表現方法を生かす」取組を積極的に取り入れたことが、成果につながった。

(2) 課題

①新聞活用の適時性

課題設定の段階などでは、生徒は互いに持ち寄った新聞記事の紙面に線を引き、その内容について対話しながら思考を深めていた。多様な情報を集めることに紙面は効果的であった。一方、追究テーマに関して、生徒が調べたいことを焦点化してから、関連した新聞記事を探そうとすると、なかなかタイムリーな記事を見つけることができず、苦勞する姿が見られた。長期に渡って関連記事を蓄積することに労力を費やすことが多かった。

しかし、2年次から、新潟日報社と朝日新聞社のデータベースを利用できるようになり、調べたいキーワードから記事を検索することが容易となった。これまではNIE実践・研究委嘱校ということで、データベースの利用が可能であったが、紙面とデジタル版の両方を学習活動に生かすために、今後もデータベースの活用機会を探っていきたい。

②協働的な学習への新聞活用の位置づけ

2年間の実践の中で、新聞の活用場面を工夫してきたが、諸事象について多様な視点を提示している記事や、各自の主張を形成する上で力強い根拠となる記事を読むことが、他者と一緒に思考を深めていくことに効果的であったと考える。そういった活動を繰り返してきた生徒の多くは、アンケートで「新聞によって考えを広げたり、深めたりできる」と答えている。一人では新聞を読み解く力や、諸事象を多様な視点から分析する力が十分に発揮できず、他者との関わりの中で気づき、その喜びを感じることも多かった。

このような生徒の実態を踏まえ、今後も単元構想や指導計画を立案する際、協働的な学習の取組の中で、新聞を効果的に活用する場面を設定していきたい。(久保田 ひとみ)

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

1 担当アドバイザー

小千谷市立小千谷中学校 校長 若林 靖人



本実践は、3年間の「総合的な学習の時間」の探究過程に新聞活用を計画的に位置付けている。1年生時は情報のまとめ方のスキル習得、2年生時は体験を幅広く捉え直すための情報、3年生時は自分の考えを根拠付けるための情報としての新聞活用である。郷土を題材にした探究過程において、体験や調査活動等と関連する記事を活用することで、体験等で収集した感覚的情報が多様かつ信頼性を伴った情報となり、整理されていった。タブレットで思考ツールを活用したことにより、整理された情報が分かりやすく表現されており、出雲崎中学校が本実践で主題とした「よりよく表現しようとする生徒の育成」が具現化された実践であったと言える。

授業での活用、新聞に親しむ環境づくりの両面から取組を進めたことにより、生徒は社会への関心を広げていくことができた実践であった。

2 担当新聞・通信社

日本経済新聞社新潟支局長 水庫 弘貴



2023年10月30日に、出雲崎町立出雲崎中学校で開催された研究発表会を参観させていただきました。地域の課題の解決策を考えるのに、教員の方の指導の下、中学生が上手に新聞を活用していることに驚かされたというのが正直な感想です。

同校の3年生は人口減少や少子高齢化など町が抱える課題と、その解決策を考える授業をしました。生徒たちは町役場の担当者らに話を聞くとともに、新聞を読んで何が問題かを把握していました。その上で、高齢者ら買い物弱者対策として移動販売車を導入するといった他地域での取り組みなども新聞で調べ、解決策を考える参考にしていました。客観的な視点や広域での調査といった自分たちだけでは難しい分野について、新聞をうまく利用していることに感心しました。

若者を中心に「新聞離れ」が指摘されています。新聞は世界に通じる「窓」の役割も果たしています。子どもたちから新聞に親しむことで、可能性の翼を大きく羽ばたかせることにもつながると思います。今後ともNIE活動にご理解、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。